岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

閉経期女性の愁訴とイソフラボン摂取および生体内エストロゲン・イソフラボンの関連性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清水, 弘之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/518

Ⅰ．はしがき

大豆製品に多く含まれる植物エストロゲンの一種、イソフラボンには、実験研究により、女性ホルモン様作用が示されている。このため女性の閉経前後に見られる更年期症状の緩和作用、骨粗鬆症の予防効果が期待されている。

本研究では、閉経前後の女性を対象に、大豆製品およびイソフラボン摂取を中心とした食生活を、妥当性を評価した食物摂取頻度調査票を用いて詳細に調査し、閉経期にみられる諸症状、骨密度、血清エストロゲン値との関連性を評価する。また、血清中のイソフラボン代謝物を測定することにより、大豆製品およびイソフラボン摂取の客観的な指標として用い、閉経期にみられる諸症状、骨密度、血清エストロゲン値との関連性を評価する。閉経期の愁訴は、欧米で広く使われているクッパーマンテストを用いて多面的に評価し、合わせてCES-D調査票を用いて、鬱状態の評価もおこなう。

大豆製品およびイソフラボンを多く摂る者に閉経期愁訴が少なく、骨密度が高いという結果が得られれば、大豆製品の更年期障害、骨粗鬆症予防食品としての可能性が示される。